

1 主題名「目標に向かって努力する」

2 教材観

- (1) 教材名「一りん車にのれた」(東京書籍 あたらしい道徳3)
- (2) 内容項目 A一(5) 希望と勇気, 努力と強い意志
中心的な道徳的価値 努力と強い意志
- (3) 指導との関連

本教材「一りん車にのれた」は、主人公の「わたし」が一輪車に乗れるようになるまでの話である。「わたし」は一輪車に乗りたくて練習をするが、なかなかうまくいかない。転んでけがをしてからはすっかり嫌になってしまい、練習をやめてしまう。しかし、上級生が一輪車でメリーゴーラウンドをしているのを見て「あんなふうにできるようになりたい。」と目標を持ち、再チャレンジをする。友達の励ましもあり、練習を続けることでついに1メートル乗れるようになった。喜んだ「わたし」は、ますます目標に向かって頑張ろうとする気持ちを強める。

一輪車は学校にもあり、休み時間に練習している姿が見られることから、子供たちが非常に共感しやすい教材である。

簡単にはできないことにチャレンジし努力をするものの、一度は挫折した「わたし」。しかし、その後に再チャレンジし、努力を続けた「わたし」。その挫折の前後の変容の理由を考えさせ、困難にぶつかっても努力を続けようとする強い意志の源になるものに気付かせたい。

また、「わたし」は教材後半で目標には達しないまでも、「1メートル乗れるようになった」ことで大きな喜びを感じている。これは、今できることを精一杯「努力した」からこそ感じるができる「喜び」であろう。目標を達成できたかできなかったかの結果だけでなく、今できることを精一杯「努力」し続ける過程そのものに成長があり、喜びがある。そしてその喜びは、「次の挑戦」につながっていくのである。

人間は、成功体験や失敗体験を繰り返しながら成長していく。しかし、この時期の児童は生活経験自体が少なく、何かに挑戦してもちょっと失敗すると自信を失い、諦めてしまう場合も多い。本教材に描かれている挫折を乗り越えて努力する「わたし」の姿を通して、「努力する過程の価値」について気付かせていきたいと考え、本主題を設定した。

3 児童の実態 [第3学年1組 男12名 女14名 計26名]

本学級の児童は、好奇心が旺盛で新しいことに挑戦してみたいという意欲が高い。学級の約8割の児童が「今、頑張っていることがある」と答えている。できないことを克服しようと、目標を立てて地道にコツコツと努力を続けている児童もいるが、しかし、頑張っている内容を見ると、自分にとって取り組みやすそうな目標を立てて頑張っている児童が多い。失敗を避けようとして無難な目標を選んでいる傾向が見られる。

また、少し困難が生じると途中であきらめてしまう児童もいる。「困難なことにぶつかった時、あなたはどのようにしていますか?」という質問に対しては、3割の児童が「そのままにして、あきらめる。」と回答している。

学期ごとに目標を立てて生活しているが、自分でやろうと決めた目標に向かって長期間継続して努力できている児童は少ないと言える。

4 指導観

(1) ねらいとする価値について

本主題は、学習指導要領の第3学年及び第4学年の内容における視点A「主として自分自身に関すること」の内容項目5「自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと」を受けて設定したものである。この「目標」とは、「なりたい自分の姿」と捉える。「努力」とは、「目標達成に向けて心や体を使って努めること」である。目標の達成は、「なりたい自分になるのだ」という強い意志を持って、粘り強く努力し続けたことの結果である。

実際には、何の障害もなく簡単に目標が達成することは、ほとんどない。その過程の中で壁にぶつかり、挫折することもたくさんある。しかし、それでも努力し続けることは大きな価値がある。結果的に、その時の「なりたい自分」に達しなかったとしても、前より「よりよい自分」に近づいている。結果ではなく、その過程にある「強い意志」で「努力」を続けることよさに気付かせたい。

(2) 指導に当たって

授業の導入では、児童の「考えたい」というきっかけを作る。まず、児童の身近な例から努力について考える。そして努力のよい面と大変な面について、児童のこの段階での考えを聞き、板書に残す。「努力をするって、大変なことだけど、どうやったら続けていけるのでしょうか。」と投げ掛け、児童の心に課題意識を持たせる。

展開では、「努力・強い意志を持つことよさ」に向かって教師の発問に対して考えたり、友達の考えを聞いたりして価値理解を深めていく。まず、教材文を通読し、頑張ったけれどなかなかうまくいかずに挫折してしまった「わたし」の思いに共感させる。その後、「けがをする前のわたし」と「クラブ見学後のわたし」が努力している時の気持ちを比較させる。努力している点では、どちらも違いはない。しかし、後者は練習中にけがをし、挫折をしてからの再挑戦である。「なぜ、一度は見るのも嫌になった一輪車なのに、再び練習を始めたのだろうか」と問い返しを行うことで、「メリーゴーラウンドができるようになりたい」という明確な目標を自分で持ったことや、友達の励ましがきっかけになったことに気付かせたい。

さらに、「この後、わたしはメリーゴーラウンドができるようになったと思いますか。」と問い、メリーゴーラウンドができたとしても、できなかったとしても、こうした努力を続けることで「わたし」が人間としてどんどん成長していくという、「努力のよさ」に気付けるようにしていきたい。

終末では、これからの「生き方」に対しての自分の考えを持つ。本時の授業から分かったことやこれからの生活に生かしたいことをノートに書き、それを紹介し合って学級全体で個々の思いを共有したい。また、導入時の自分の「努力」に対する考えと終末時の考えを比較することで、本時の気づきを実感させたい。

5 自己の研修課題との関連

(1) 研修テーマ 児童が道徳的価値について深く考える授業を目指して

－ 発問の質や構成の工夫を通して －

(2) 研修課題との関連

本主題において、「深く考える」とは、「努力・強い意志」について、教師の発問に対して考えたり、友達の考えを聞いたりしながら多面的・多角的に思考を広げ、自分との関わりで考えることを通して、自己の生き方について考えを深めることと捉えた。このような授業を目指して、以下の点を工夫していきたい。

① 児童が、道徳的価値について多面的・多角的に思考を広げられるような発問の質の工夫
ア 「気付かせたいこと」と「考えさせたいこと」を明確にして発問を吟味する。

イ 児童の多様な見方や考え方が表れるような発問を吟味する。

② 児童が、自分との関わりで実感を持って道徳的価値を捉えられるような発問の質の工夫

- ア 導入で、道徳的価値について自分との関わりで課題意識を持たせる発問を行う。
- イ 終末で、道徳的価値について新しく気付いたことやこれからの自分の生活に生かしたいことを問い、実生活につなげて考えられるようにする。

③ 児童が、自己の生き方について考えを深められるような発問構成の工夫
本主題においては、以下の図1のように発問構成を考え児童の思考を深めていく。

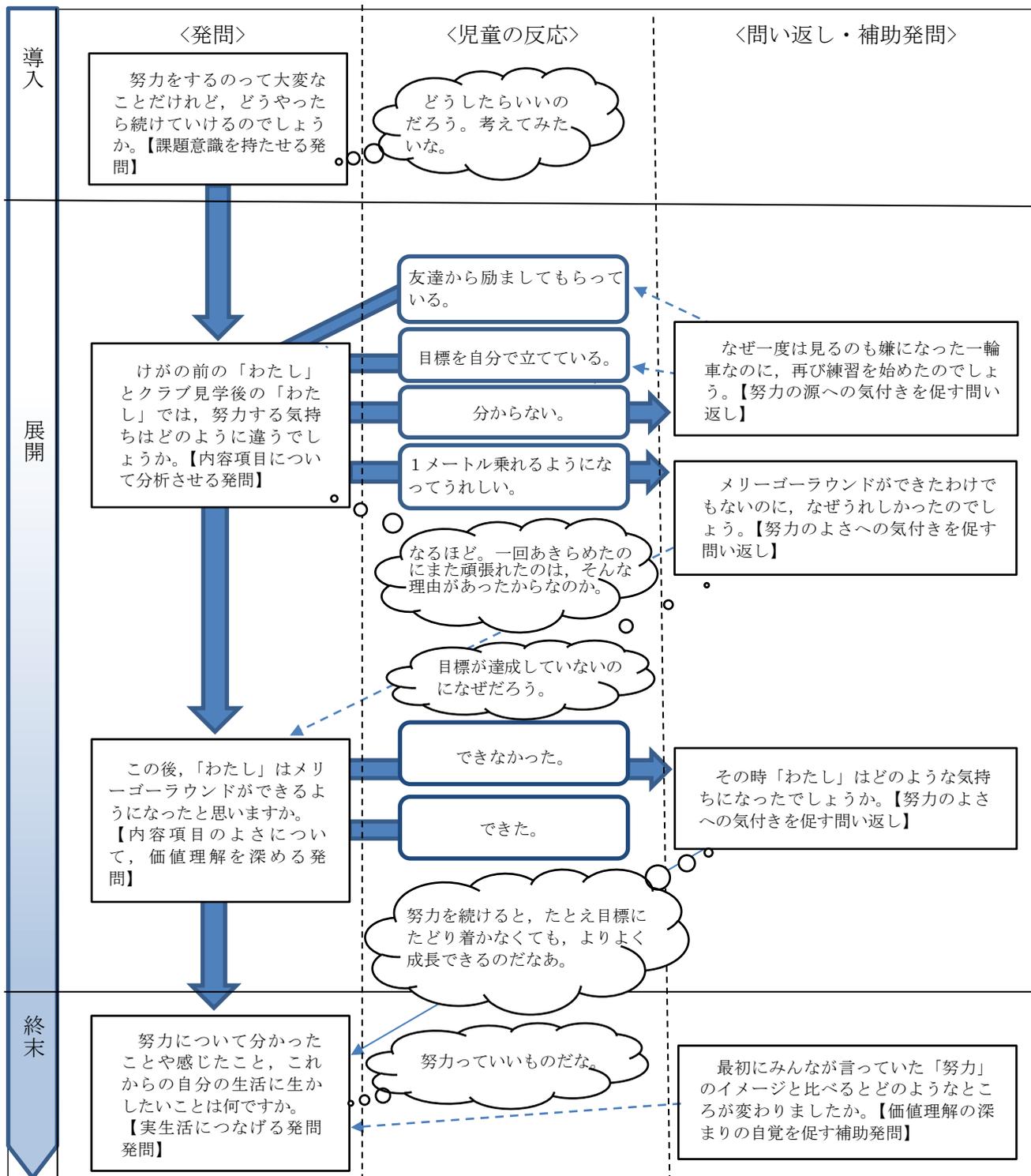


図1 発問構成の工夫

6 本時の計画

(1) 目標

- ◎ 目標に向かって、困難があっても努力し続けていこうとする心情を育てる。

(2) 指導過程

段階	学習活動 ・予想される児童の反応	○指導上の留意点 ※評価（方法）
導入 (5分)	<p>1 自分たちの身近な例から、「努力」について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>みんなは、努力して、できるようになったことがありますか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒で「こうもり」ができるようになった。 ・プールで「けのび」ができるようになった。 ・自転車に乗れるようになった。 ・走るのが、速くなった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>でも「努力」って、途中でいやになってしまうこともありますね。どうしてでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・やろうとしたことが、なかなかできないと辛くなる。 ・毎日するのは、飽きる。 ・疲れてしまって、やめたくなる。 ・頑張っても、結局できない時がある。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>努力をするのって大変なことだけれど、どうやったら続けていけるのでしょうか。今日は、「努力」について考えてみましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○今までの自分の生活を振り返り、身近なところから「努力」について考えさせることで課題意識を持たせる。 ○本時のめあてを「努力について考えよう」と明示することで、児童に中心内容項目について考えていくことを意識付けする。 ○導入時の児童の「努力」に対してのよきと大変さのイメージを板書に残す。授業後の自分の考えと比較できるようにし、その変化を自分で気付けるようにする。 ○頑張ろうとしたけれどできなかったことをこれまでの体験から具体的に話せるように促す。 ○努力を続けることの大変さを全体で共有する。しかし、それでも努力を続けていくにはどんなことが必要なのか知りたいという課題意識を持たせるようにする。
展開 (30分)	<p>2 教材「一人車にのれた」を読んで、わたしの行動から、挫折の前後の努力を比較し、その違いを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>けがの前の「わたし」と一輪車クラブの見学をした後の「わたし」では努力する気持ちは同じでしょうか。違うでしょうか。その理由も考えましょう。</p> </div> <p>【同じ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・けがの前も見学の後も、どちらも苦手なことを頑張っているから。 <p>【違う】</p> <p>a 見学後の方が一生懸命努力している。1メートル乗れるようになったから。</p> <p>b 見学後の方が努力している。友達からの励ましの言葉があって頑張ろうと思ったから。</p> <p>c 見学後の方が、一生懸命努力している。一回やめているのにまた挑戦しているから、後の方が思いが強いと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が範読したり、「わたし」の挫折や挫折後に再び努力を始めたことが視覚的に捉えられるような図を板書したりして、児童が場面の状況を把握しやすくする。 ○「わたし」にとっての目標が何であるのかと一度挫折していることを確認する。 ○導入時の「努力の大変なところ」の板書に触れ、挫折した時の「わたし」の思いに十分共感させるようにする。 ○一人でノートに書いた後、ペア→全体で話し合い、考えを広げる。 ○ペアや全体での話し合いでは、「なるほど」と思った意見は青ペンでノートにメモするようにさせる。 ○全体での話し合いでは、その理由に対して児童の考えがより深まるような「問い返し」を行う。 ○ペアや全体で意見を交流する時は、「付け足しで」「違って」「似て」というよ

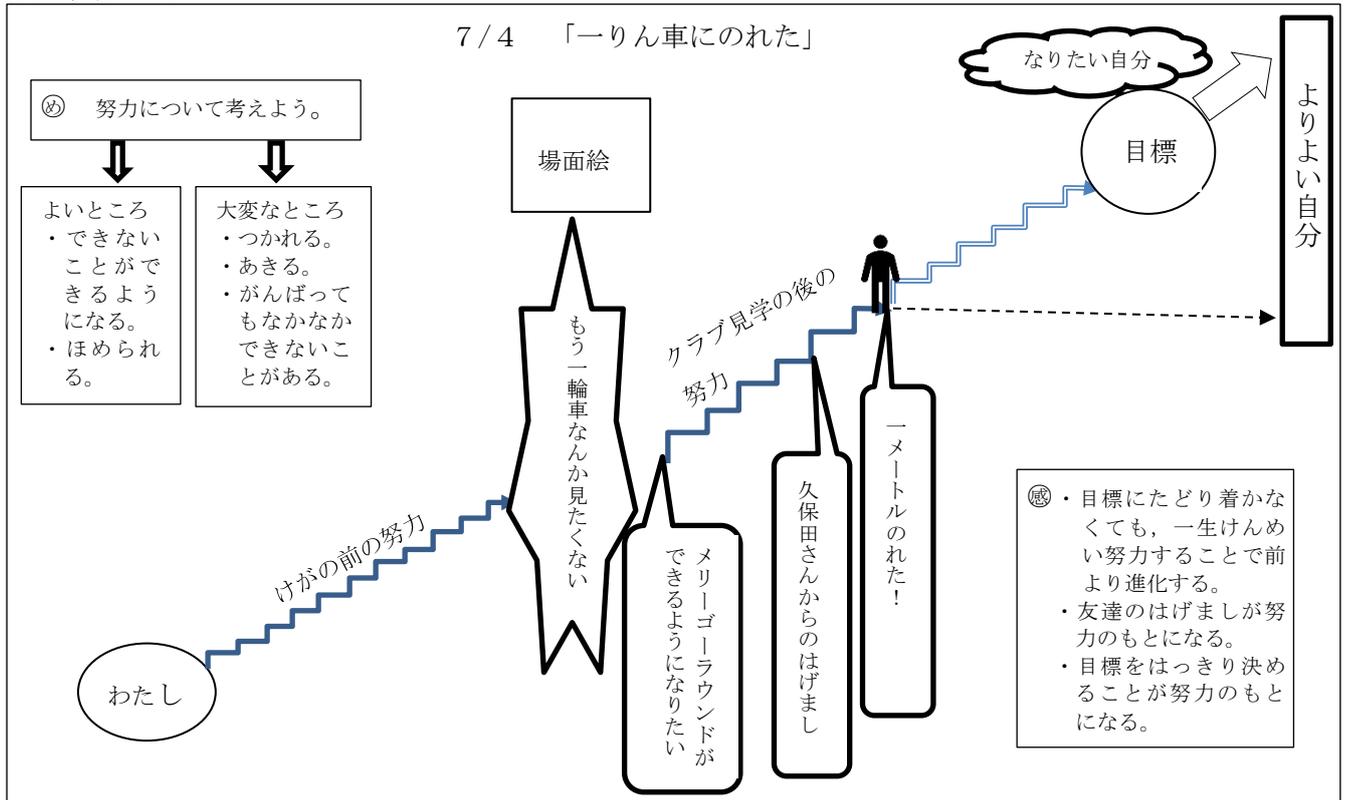
	<p>d 見学後の方が、より努力している。「メリーゴーラウンドがしたい」という自分が決めたはっきりとした目標ができたから。</p> <p>e 分からない。</p> <p>3 2の話合いを踏まえて、努力のよさについて考え、価値理解を深める。</p> <div data-bbox="209 678 798 795" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>この後、わたしはメリーゴーラウンドができるようになったと思いますか。</p> </div> <p>a メリーゴーラウンドは難しいから、なかなかできないと思う。</p> <p>b 一生懸命練習を続けているから、できたと思う。</p> <p>c 分からない。</p> <div data-bbox="204 1025 794 1146" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>できなかった時、「わたし」はどのような気持ちになったでしょうか。</p> </div> <p>d 頑張ったのに、結局できなくて悔しい気持ちになる。</p> <p>e できなかったけど、前よりは上手になっているから、もっと頑張ろうという気持ちになる。</p> <p>f 分からない。</p>	<p>うな友達の意見につなげるような発表を促す。</p> <div data-bbox="842 248 1398 571" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><問い返し例></p> <p>e →なぜ一度は見るのも嫌になった一輪車なのに、再び練習を始めたのでしょうか。</p> <p>a →メリーゴーラウンドができたわけでもないのに、なぜうれしかったのでしょうか。</p> </div> <p>○状況を絞って登場人物の心情を問うことで、内容項目のよさに気付かせる。</p> <p>○ペアでの話合いを取り入れ、その後全体で話し合う。</p> <p>○机間指導を行い、座席表を活用して多様な意見が出るように配慮する。</p> <p>○図の努力線上の位置を確認することで、aの場合もbの場合も、最初の自分より目標に近づいていることに気付かせる。</p> <p>※努力について、多面的・多角的に捉え自分の考えになかった新しい気付きを持っている。(発言)</p>
<p>終末 (10分)</p>	<p>4 「努力」について、今日の学習から分かったことや感じたこと、これから自分の生活に生かしたいことをノートに書き、伝え合う。</p>	<p>○導入時の「努力」のイメージを確認し、本時の授業を通してどう変わったのか自覚できるようにする。</p> <p>○机間指導して、以前と比べて考えが深まった児童や、自分の生活に生かそうとしている児童などの意見を取り上げ、共有する。</p> <p>○自分の生活に置き換えて具体的に記述できるよう助言する。</p> <p>※困難があっても努力し続けることのよさについて、自分事として考えている。(ノート)</p>

(3) 準備物

教師：教科書、マグネット、場面絵

児童：教科書、道徳ノート、筆記用具

(4) 板書計画



(5) 評価

※努力について、多面的・多角的に捉え自分の考えになかった新しい気付きを持っている。(発言)

※困難があっても努力し続けることのよさについて、自分事として考えている。(ノート)